

作目名	にんじん
-----	------

作型名	春夏どり
-----	------

月 旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		品種
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
春夏どり																							向陽二号		
トンネル栽培																									
〃																								彩誉	
〃																									

○ は種 △定植 ■ 収穫 ◡ トンネル

○技術体系設定の前提条件

(1) 対象地域

岐阜、西濃、中濃

(2) 立地条件

①気象条件

にんじんの温度に対する生態的特性と被覆資材から、根部の肥大始めが外気温の平均気温で11℃（4月上旬頃）、根部の肥大最盛期で14℃（4月下旬頃）にあてはまるような作型が可能な地域。

②ほ場条件

根の伸長肥大、形状、品質、根色などは土壤水分によって影響を受ける。そのため地下水までの深さは砂壤土、壤土で60cm、粘質な埴土で80cm以上あることが望ましく、うねを上げることによってこの高さを確保できるほ場を選ぶ。この作型は低温期の栽培であるので、地温の高まる砂質壤土で腐植含量が多く保水性の高い土壤が好ましい。また、根部肥大期は雨量の多い時期となるため、湿害による根腐れを防ぐため排水条件のよいことも必須条件である。特に水田利用の場合は高うね栽培とし冠水しないよう注意する。

③栽植株数（10a当たり）

30,000から35,000本

(3) 目標収量（10a当たり）

4 t

○施肥基準

(1)施肥基準量 (10a当たり・kg)

施肥成分	総量		基肥	追肥						
				1	2	3	4	5	6	
窒素	化学肥料由来	12.0	12.0							
	有機質肥料由来	4.0	4.0							
りん酸		18.0	18.0							
加里		18.0	18.0							

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 2 鶏糞はシミ症の原因となるので使用しない
- 3 他作物との組み合わせ（輪作）を行い、緑肥作物を栽培して土壤病害を軽減するとともに肥料の流亡を防ぐ
- 4 土壤改良資材は畑が空いたら早めに施す

作型名	冬どり
-----	-----

月 旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		品種
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
冬どり																									向陽二号

○ は種 △定植 ■ 収穫

○技術体系設定の前提条件

(1) 対象地域

岐阜、西濃、中濃

(2) 立地条件

①気象条件

地上部の生育適温が18～21℃であり、根の肥大適温も20℃付近である。根部の着色適温が16～20℃で12℃以下で着色が著しく悪くなる。根部の肥大はは種50日後より始まり70日後に最盛期となる。この時期に着色も始まる生態的特性のため、一般平坦地では9月下旬～10月中旬に根部の肥大期の条件にあう地域。

②ほ場条件

根の伸長肥大、形状、品質、根色などは土壤水分によって影響を受け、土壤含水量の70～80%が最もよく常に適湿のほ場を選ぶ。乾燥する土壤では根の伸長、肥大着色が悪く岐根、ひげ根も多く

なりやすい。また、根部肥大期に排水が悪く湿度が高くと根部の肌があれ極端な場合は根腐れ、着色不良となる恐れがあるので、特に水田利用の場合には排水に十分注意する。土壤酸度はpH5.5～6.0が適当で酸性になるに従い生育は劣る。

③栽植株数（10a当たり）

35,000本

(3) 目標収量（10a当たり）

4.5 t

○施肥基準

(1)施肥基準量（10a当たり・kg）

施肥成分	総量		基肥	追肥					
				1	2	3	4	5	6
窒素	化学肥料由来	13.2	9.6	1.8	1.8				
	有機質肥料由来	3.2	3.2	0	0				
りん酸		19.2	14.4	2.4	2.4				
加里		21.6	14.4	3.6	3.6				

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 2 他作物との組み合わせ（輪作）を行い、緑肥作物を栽培して土壤病害を軽減するとともに肥料の流亡を防ぐ